

♪ わが家のアイドル ♪



若松町
中筋 楓海ちゃん（2歳）
来年にはお兄ちゃんになります♡
頑張っね！



甲田
植木 律ちゃん（7カ月）
詩ちゃん（2歳2カ月）
電車好きの兄と兄が大好きな弟
いつまでも仲良かね。



若松町
竹林 芽依ちゃん（4カ月）
これからも元気に大きくなってね★

みんなの広場

寿100歳おめでとうございます！ 寿

宛先

584-8511
富田林市役所
常盤町1番1号
情報公開課広報係
住所・氏名(ふりがな)・電話番号

わが家のアイドル(対象年齢は4歳未満、兄弟・姉妹と一緒に写っている写真でも可)は、写真に、メッセージ(20字程度)を添え、住所、保護者とお子さんの名前(ふりがな)、撮影時の年齢(月)

齢)、電話番号を記入し、Eメール [kouhou@city.tondabayashi.lg.jp] または、封書で左記の宛先まで応募してください(Eメールの場合は件名に「わが家のアイドル」と入力してください)。なお、今応募された場合、掲載は約2カ月後になります。



5月8日、100歳の誕生日を迎えられた九鬼 忠一さんを訪問しました。ご家族や施設の皆さんにお祝いされ、とても喜んでおられました。



6月8日、100歳の誕生日を迎えられた三並 セツさんを訪問しました。食事は好き嫌いなく何でもよく食べられるそうです。

川柳

富柳会 池 森子選
今月の宿題「嵐」

秀句

子育ての嵐がやがて宝物

小金台 粟田 昌

△選評▽子育ては嵐の如くに手がかかるとは思うのですが：何よりの宝物ですから：故に当分の間は成長を静かに待ちながら抱きしめましょう。そしてその成長ぶりは嵐の如くに強かですしてやさしい：自然体。

人間の花も嵐も越えて喜寿

高辺台 児玉 暢夫

振り向けば嵐を越えた道数多

甲田 岸本 慶子

嵐にも負けず昭和を生きた母

不動ヶ丘町 景山 睦子

春嵐冬の嵐も乗り越えて

彼方 西尾 たみ子

テレビから世相の嵐押し寄せる

須賀 林 澄子

百日すぎトランプ嵐ちよつと止み

高辺台 矢野 正弓

わが物をわがままにする乱気流

選者 吟

※8月号は「短歌」を掲載します(なお、応募は6月30日で締め切りました)。

川柳・短歌・俳句は、それぞれ別のはがきで応募してください(1人各5点まで)。市内在住の人で未発表のものに限ります。作品の漢字や氏名には必ずフリガナをつけてください。

9月号の「俳句」は7月31日(月)、10月号の「川柳」(宿題「漠然」)は8月31日(木)、11月号の「短歌」は9月30日(土)までに応募(いずれも必着)してください。宛先は上記をご覧ください。

青少年主体の活気ある・役立つ施設をめざして
青少年委員会の取り組みについて

いよいよ今年9月、市きらめき創造館がオープンします。同創造館は、若者の育成拠点と位置づけ、青少年をはじめとした市民の皆さんの自主的な活動を支援し、生涯にわたる学習活動を促進することを施設の目的としています。

オープンに先立ち昨年6月、同創造館を活気ある施設、青少年に役立つ施設にするためにはどうすればよいかを、青少年自ら考える「青少年委員会」が誕生しました。

同委員会には、一般公募で集まった市内の中学校・高校の生徒、大学生など約30人が参加しました。



第1期青少年委員会のメンバー

同委員会のファシリテーター（会議の進行役）には、南河内を中心に若者の育成に関わっている谷川 うりさん（NPOゲキトモエンターテイメント代表）に務めていただいています。

昨年度は、休館日や開館時間を

施設利用料をどうするかなど、主に同創造館の運用について毎回、ワークショップ形式で意見を出し合いました。

市も同委員会の意見を踏まえ、市きらめき創造館条例や同施行規則に反映させ、施設の「利用の手引き」を一年間かけて作成しました。「利用の手引き」を作成する中で、各部屋の名称や利用方法など、同委員会の意見が多く採用されました。

同創造館の愛称「Top Pic」も、同委員全員で考案したものです。

昨年度は計5回、同委員会を開催しましたが、会議への参加をきっかけに、学校や学年の違う者同士が仲良くなったたり、人前で話すことが苦手だったメンバーが積極的に意見が言えるようになったりと、青少年自身の成長につながることができました。今年度も同委員会は継続され、新しいメンバーも入ってきました。

いよいよ「Top Pic」が完成することから、昨年度にできなかった、青少年たちが主体的に企画・運営するイベントなどを同委員会により実施していく予定です。

市では、同委員会に参加していただける人を継続して募集しています。

活動に興味・関心のある皆さんのご参加をお待ちしています。

生涯学習課（☎1451）

MEET★とんだばやし

～認知症になっても笑顔で暮らせる富田林～

本市では、「認知症になっても笑顔で暮らせるまち」をめざして「MEET★とんだばやし（みんな笑顔と笑顔で手をつなごう）」をキャッチフレーズに、さまざまな取り組みを進めています。

●感想文を書こう！MEET★富田林コンクール

認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らすためには、地域の人々の理解や協力が大きな力となります。今後社会を担っていく子どもたちに、認知症について関心を持ち、身近なことだと感じてもらえるよう、市では、認知症について学ぶことのできる書籍を紹介し、感想文の募集をしています。

また、学び、感じたことを発表する場を設け、より多くの人々が「読んでみよう、勉強してみよう」と思うことを



同コンクール昨年の受賞者

きっかけに、認知症の人とともに地域で暮らしていただける市をめざします。同コンクールの募集について、詳しくは13ページをご覧ください。

●認知症サポーター養成講座

認知症サポーターとは、何か特別なことをする人ではありません。認知症について正しい知識を持ち、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者として、自分のできる範囲で活動します。認知症を理解する人（認知症サポーター）が増えることで、認知症の人やその家族が安心して暮らせるまちになります。友人や家族に学んだ知識を伝える、認知症になった人やその家族の気持ちを理解するよう努める、商店や交通機関などで人と身近に接する、職場で知識を生かすなど、まずは身近なところから始めてみませんか。

同講座の開催について、詳しくは25ページをご覧ください。

また、同講座の講師役である「認知症キャラバン・メイト」が、地域の自治会や老人クラブなどの集会、小・中学校、企業や商店、公共交通機関などに出向く、出張型の「認知症サポーター養成講座」も開催しています。詳しくは高齢介護課までお問い合わせください。

高齢介護課（内線189）